



MSC年次報告書 2024年度

(2024年4月~2025年3月)

サステナブル・シーフード拡大に向け、ともに取り組む



“

持続可能な漁業は、健全な海を維持し、世界中の多くの人々に低炭素な食料源を供給するうえで極めて重要な役割を担っています。

MSC最高責任者 ルパート・ハウス

”

表紙の写真：南アフリカのピンナガマグロー本釣り漁業 ©MSC
このページの写真：イギリス、ハイランズ・アンド・アイランズ大学の貝類専門家 ©David Loftus

目次

MSC最高責任者のごあいさつ	02
2024年度の成果	04
MSCプログラム参加漁業の動向	06
市場の動向	08
漁業の改善を促進	10
MSC改善プログラム	12
認知の向上と需要の拡大	14
魚種別の動向	16
白身魚	17
マグロ・カツオ類	18
サケ類	18
ロブスター類	19
小型浮魚	19
二枚貝、海藻、エビ・カニ類	20
タコ・イカ類	21
数字で見る魚種別の動向	22
2024年度決算報告、財源および資金提供者	24
MSC評議員会会長のごあいさつ	26
2024年度ガバナンス	27

南アフリカのピンナガマグロー本釣り漁業 ©MSC





漁業の持続可能な未来に向けて

今もなお続く経済的、地政学的な課題にもかかわらず、今年度は著しい進展と革新の年となりました。漁業や市場におけるパートナーの取り組みは継続して拡大しており、海洋に対する政治的な関与も強化されています。その証として、2025年6月にニースで開催された国連海洋会議には、60人以上の各国首脳を含む15,000人ももの代表が参加しました。

MSCプログラムにおいては、これまで十分に対応できていなかった地域で心強い進展がありました。ラテンアメリカではアルゼンチンアカエビ漁業がMSC漁業認証を取得し、西アフリカではセネガルのカツオ・キハダマグロ漁業が同地域で初となるMSC漁業認証を取得しました。両漁業ともMSC漁業認証規格を満たすために大幅な改善を実施しており、市場を基盤とするMSCのシステムが世界中の海域に良好な影響をもたらすことを裏付けています。

特に新興経済国における持続可能な漁業の拡大は、MSCのミッションにとって重要であり、今年度は「MSC漁業認証取得に向けた改善プログラム（MSC改善プログラム）」の開始によってその重要性が強調されました。これは試行として実施し実績を上げていた「MSC認証漁業への移行プログラム（ITM）」に基づいており、5年以内にMSC漁業認証の本審査に入るための道筋をつけるためのものです。昨年、南アフリカの2つのマグロ漁業がITMを経てMSC漁業認証を取得するという初の快挙を成し遂げました。

MSCはまた、海洋管理基金を通じてさらなる変革を促しています。今年度は漁業の改善や重要な海洋研究を支援するために220万ドルを授与し、2020年以降の授与総額はおよそ900万ドルに達しました。

持続可能性への取り組みを始めたばかりの漁業を支援すると同時に、持続可能な漁業のリーダーたちを称えることも重要です。

アラスカのスケトウダラ漁業は、2025年の認証更新審査で極めて高いスコアを達成し、認証の5期目に入りました。同漁業は世界最大級の漁獲量を誇る漁業の一つであり、持続可能な管理が一貫して高い漁獲量を支えるということを実証しています。この点については、国連食糧農業機関（FAO）が2025年に発表した報告書「Review of the state of world marine fishery resources（世界の海洋漁業資源の状態に関するレビュー）」でも強調されています。

MSCでは、漁業認証規格の最新版において、運用上の課題解決に向けた対応を継続しています。現在、包括的な見直しを進めており、2027年初頭に改定版の漁業認証規格を発行する予定です。

MSCのパートナーの皆さまには、自らが今年度成し遂げたことを誇りに思ってくださいと同時に、さらなる取り組みをともにしていく必要があります。目標14「海の豊かさを守ろう」を含め、国連が掲げるSDGs（持続可能な開発目標）の達成期限まで5年しか残されておらず、利用可能なあらゆる解決策を活用していく必要があります。

持続可能な漁業は、健全な海を維持し、世界中の多くの人々に低炭素な食料源を供給するうえで極めて重要な役割を担っています。この1年間、MSCをご支援いただいた皆さまに感謝申し上げますとともに、2030年に向けて、引き続き一緒に取り組んでいけることを期待しています。

MSC最高責任者 ルパート・ハウス



ニュージーランドのビンナガマグロ漁業 ©MSC/Jason Thomas

20.6%

天然魚介類の総漁獲量に占める
MSCプログラム参加漁業
による漁獲量¹

2,625

2025年3月31日までに
MSC認証取得漁業が実施した
改善措置の数²

35.5%

FAOの報告による、生物学的に
持続可能でないレベルまで
漁獲されている水産資源の割合³

1. MSCプログラム参加漁業の漁獲量は、認証取得、認証審査中、認証一時停止中、MSC改善プログラム参加漁業による漁獲量。2025年3月31日時点の漁獲量および漁業データを ©FAO. 2025. Global Production. In: Fisheries and Aquaculture (2025年6月9日時点の情報を参照)の数字と比較。

2. 1997年から2025年3月31日までの期間において、MSC認証取得漁業は2,625件の改善措置を行った。

3. 「Review of the state of world marine fishery resources 2025（世界の海洋漁業資源の状態に関するレビュー 2025）」（FAO）

2024年度の成果



Doggerbank Seefischerei社が操業するグリーンランドのカラスガレイ漁業 ©Zoological Society of London

グリーンランド

ドイツのDoggerbank Seefischerei社によるグリーンランド沖のカラスガレイ漁業は、2024年11月に認証更新を達成しました。底びき網にローラーと工夫を凝らしたオッターボード（開口版）を装着することで海底との接触を低減し、深刻かつ不可逆的な海底損傷が引き起こされていないことが示されました。ロンドン動物学会が共同出資する研究プロジェクトでは、水中カメラを用いて詳細な生息域分布図を作成し、深海環境の把握と管理の向上に貢献しています。

セネガル

2024年11月、セネガル沖でカツオ・キハダマグロを漁獲するCapsen and Grand Bleu社は、4年間の改善プログラムを経て西アフリカ初のMSC認証取得漁業となりました。認証を取得したことにより、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカを含む国際市場に向けて

持続可能な漁業で獲られたカツオとキハダマグロを供給できるようになりました。

ヨーロッパ



Shebaのペットフード ©MSC

今年度、世界でのMSCラベル付きペットフードの販売は29%もの成長を果たし、その重量は12万トンを超えるまでになりました。ペットフードには魚油や魚粉に加え、切り落としや切れ端も使用されるため、特にセイス（シロイトダラ）、サケ、マグロ・カツオ類の認証水産物には付加価値が付きます。ペットフードに関してMSCにとって最大のパートナーであるマース・ペットケア社は、2024年秋、プレミアム・キャットフードSheba（シーバ）から複数の新製品を発売しました。ドイツの小売企業Netto、Aldi等のプライベートブランドのペットフード製品も成長に寄与しました。

「MSCジャパン・アワード 2024」 ©MSC



エクアドル

エクアドルのMSCラベル付きマグロ・カツオ類の重量は、2022年度の2,300トンから2023年度には11,700トンに急増し、2024年度はさらに38,800トンまで増加しました。MSC認証の取得は、230%増となったヨーロッパ市場への輸出拡大に大きく貢献しており、雇用と経済発展の促進が期待されています。



エクアドル東太平洋熱帯マグロ・カツオ類まき網漁業 ©MSC

日本

2024年8月、初の「MSCジャパン・アワード」が開催されました。小売部門、メーカー部門、フードサービス部門のカテゴリー別に、2023年度に販売されたMSCラベル付き消費者向け製品の重量に基づいて受賞事業者が決定されました。小売部門はイオン、メーカー部門はニッスイ、フードサービス部門は日本マクドナルドに賞が授与され、日本市場における普及への貢献が称えられました。

アメリカにおける25年の歩み

2025年はアメリカのMSC認証取得漁業にとって節目の年となりました。アメリカにおけるMSCの活動が25周年を迎えたことに加えて、アラスカのサケ漁業が認証を5期維持し、MSCプログラムへの参加25周年を迎えました。これは世界で3番目、アメリカの漁業では初の快挙です。また、世界最大級の漁業であるアラスカのスケトウダラ漁業が20年前にMSC漁業認証を取得したことも忘れてはなりません。こうした功績は、アラスカが持続可能な漁業管理において主導的な役割を果たしていることを改めて示すものです。

“ MSC漁業認証を5期にわたり維持していることは単なる成果にとどまらず、アラスカのサケ漁業の持続可能性と管理への取り組みが受け継がれていることの証なのです。

アラスカ漁業開発基金CEO
クリスティ・クレメント氏

”

メトラカトラ・インディアンコミュニティ、アネット島保護区のサケ漁業 ©MSC

アルゼンチン

アルゼンチンアカエビ漁業は、2025年3月にアルゼンチン初の沿岸エビ漁業としてMSC漁業認証を取得しました。これは、生物多様性に富む海域における管理・モニタリング体制を強化し、環境に及ぼす影響を最小限に抑えるため、漁業や複数のパートナーたちが10年にわたって取り組んできた成果であり、この地域の持続可能性における重要な節目となりました。また、アルゼンチンアカエビの沖合漁業も本審査に入っており、近く認証を取得することが期待されています。

“ 最高水準の環境基準を維持しながら地域の経済発展に貢献できることを大変誇りに思います。この認証取得によって新しい市場への扉が開かれ、品質の高いMSC認証のアルゼンチンアカエビを提供できるようになります。

パートナー団体の代表 フェデリコ・アンヘリリ氏



アルゼンチンアカエビ漁業 ©MSC

”

MSCプログラム参加漁業の動向

MSCプログラム参加漁業の増加により、市場の勢いは継続しています。

MSCプログラムに参加している
漁業の数

2024年度
738

2023年度
716

天然魚介類の総漁獲量に占める
MSCプログラム参加漁業による漁獲量 **20.6%***のうち

MSC認証取得漁業
による漁獲量
18.9%

MSC認証審査中
漁業による漁獲量
0.7%

MSC認証が
一時停止中の
漁業による漁獲量
0.6%

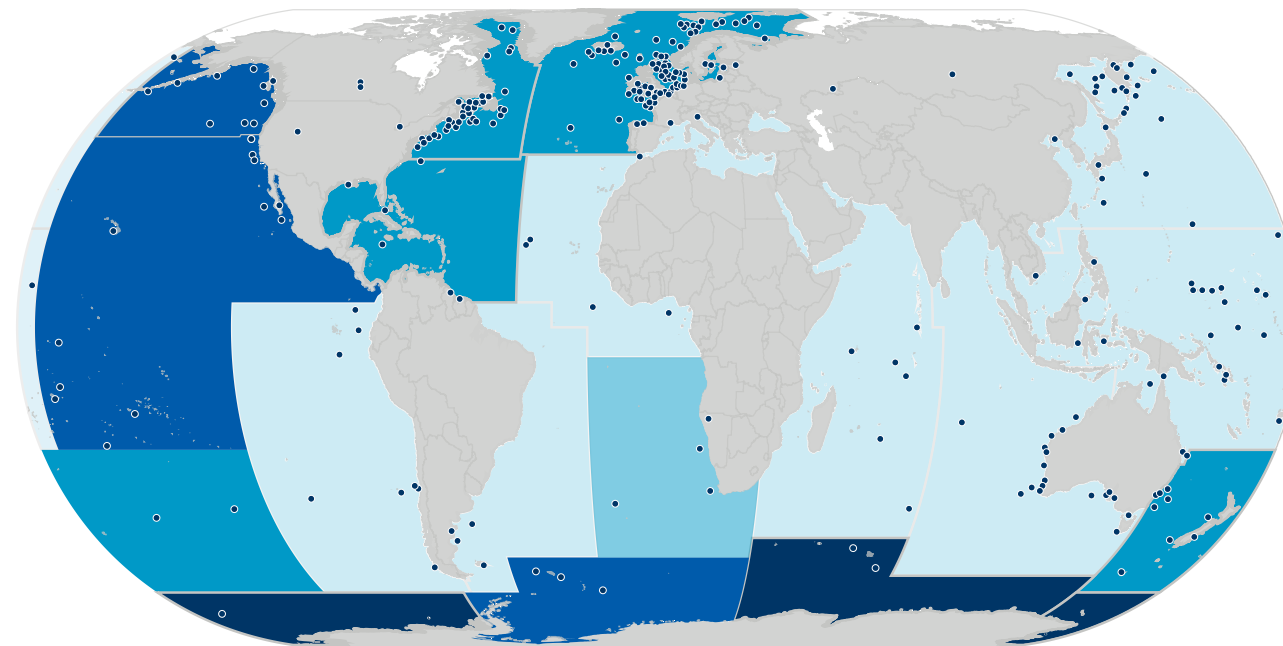
MSCプログラム参加漁業による漁獲量

2024年度 **16,100,767**トン

2023年度 **15,480,000**トン



MSC認証取得漁業の操業域



FAOによる主要漁業海域ごとの漁獲量に占めるMSC認証取得漁業の漁獲量の割合

0% 20% 40% 60% 80% 100%

・MSC認証取得漁業が操業するおおよその海域



63カ国
MSCプログラムに
参加する漁業を
有する国の数

592
MSC認証取得漁業の数

42
MSC認証が一時停止中の漁業の数

69
MSC認証審査中漁業の数

35
MSC改善プログラム参加中の
漁業の数

*MSCプログラム参加漁業の漁獲量は、認証取得、認証審査中、認証一時停止中、MSC改善プログラム参加漁業による漁獲量。2025年3月31日時点の漁獲量および漁業データを©FAO. 2025. Global Production. In: Fisheries and Aquaculture (2025年6月9日時点の情報を参照)の数字と比較。MSC改善プログラム参加漁業による漁獲量は0.4%。

市場の動向

今年度、MSCラベル付き水産物の販売は、重量ベースで8%増加しました。セイス（シロイトグラ）の販売重量はほぼ倍増し、イカ類、イワシ類、サケ類も安定した伸びを示しました。

マグロ・カツオ類は引き続き成長の最大の牽引役であり、30万トンを超えるMSCラベル付きのマグロ・カツオ類が販売されました。ドイツ、スカンジナビア、ポーランド、イギリス、アメリカでさらなるMSCラベル付きマグロ・カツオ類製品が販売されたことも、その一因となっています。

持ち帰り用製品（サンドイッチ、サラダ、寿司など）のカテゴリーにおけるラベル付き製品の増加も、マグロ・カツオ類が牽引しています。こうした成長に関係する企業や製品の詳細については、本報告書のマグロ・カツオ類のページ（p.18）をご覧ください。



4.4%

2024年度における推定小売販売金額の伸び

8%

MSCラベル付き製品の販売重量の伸び

51,260

MSC CoC認証範囲に含まれている現場の数

中央ヨーロッパにおける成長

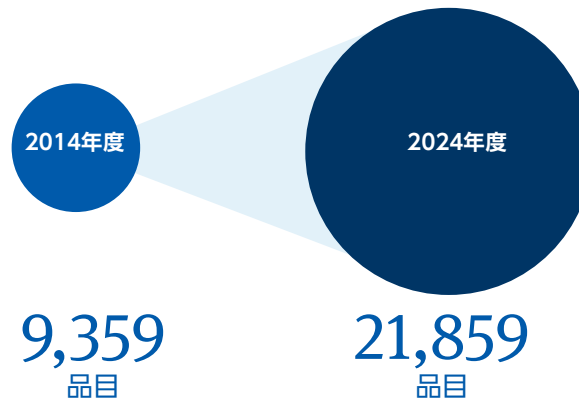
中央ヨーロッパでは国際的な小売企業が持続可能性への取り組みを推進しています。ポーランドでは、主要な水産メーカーであるAbramczykがMSCとの協力を強化し、キャンペーンへの参加やMSC認証の白身魚製品を大幅に拡充しました。Rio MareもMSCラベル付きマグロ・カツオ類製品を導入しました。

中央ヨーロッパで最も消費されている魚種の一つであるニシンについては、各水産メーカーがMSC認証取得漁業からの調達を積極的に進めた結果、MSCラベル付き製品の流通量が1年間で35%増加しました。チェコでは地元の水産メーカーであるVarmuzaが、LidlやPennyなどの大手小売企業と並んでMSC認証ニシンの販売を推進しています。



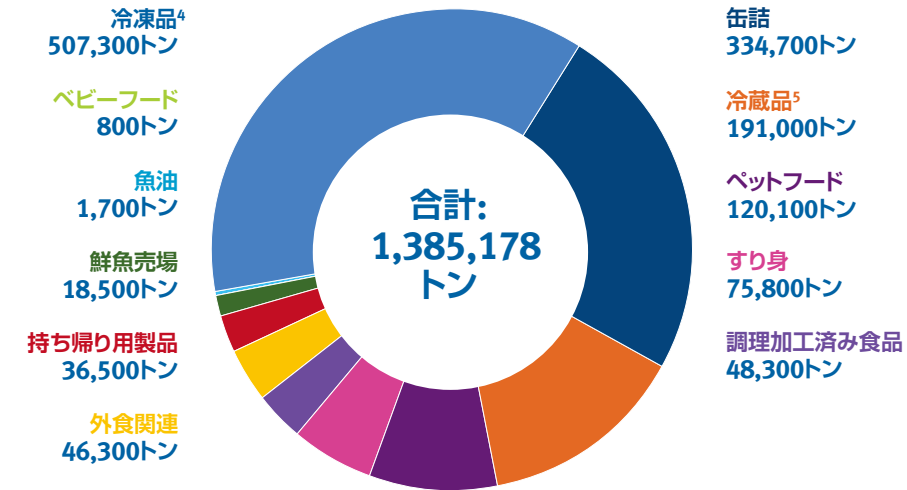
Rio Mare

消費者向けに販売されたMSCラベル付き製品の品目数



140億ドル
推定小売販売金額

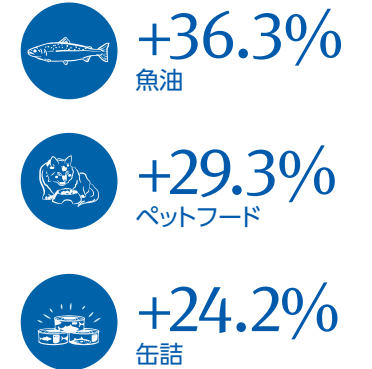
製品形態別販売重量（2024年度）



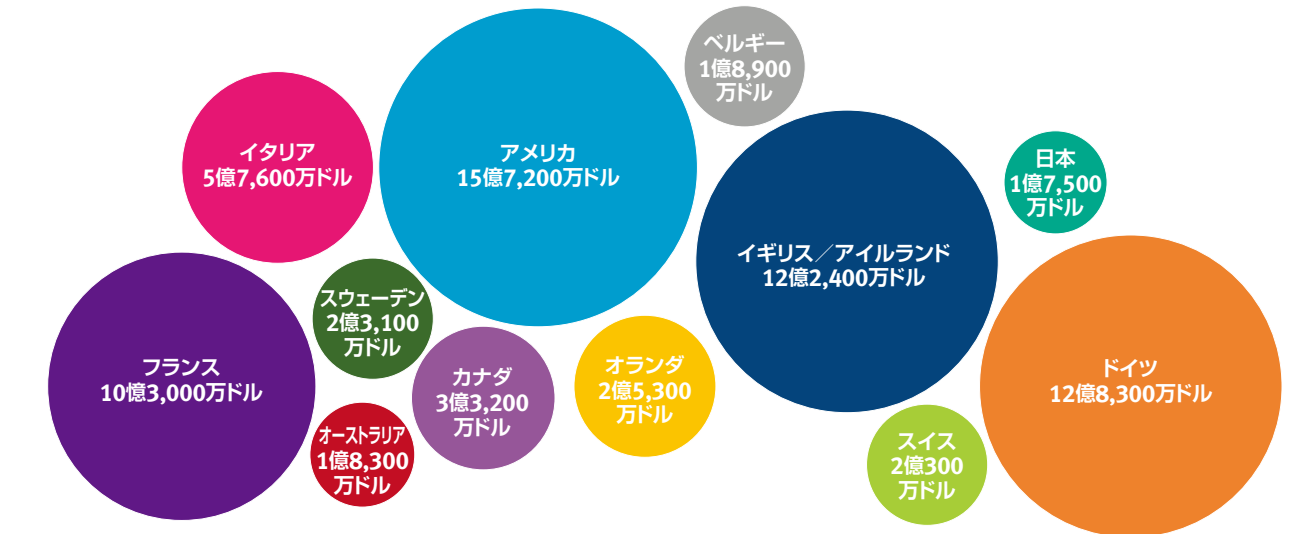
4. 未加工および加工済の冷凍品

5. 未加工および加工済の冷蔵品

最も増加した製品形態



MSCラベル付き製品の国別卸売販売金額（2024年度）



上記以外の国の卸売販売金額合計は28億1,800万ドルでした。

漁業の改善を促進

多くの漁業は、MSC漁業認証の本審査に入る前に、漁業慣行を大幅に改善することになります⁶。しかし認証取得後も、認証を維持するために特定の改善が必要になる漁業もあります。例えば、漁具の改良や海洋生態域への影響に関する知識の向上などが挙げられます。

558 過去3年間に行われた改善措置の合計



213

資源状態および漁獲戦略に関する改善



175

絶滅危惧種・保護種の保全、混獲削減に向けた改善



94

漁業管理、ガバナンスおよび政策に関する改善



76

生態系および生態域に関する改善

海洋管理基金

MSCが設立した海洋管理基金は、持続可能性を目指す漁業を支援することが目的です。毎年、MSCラベル付き製品の年間販売ロイヤルティの5%を基金に充てていますが、MSCのミッションをともにするパートナーからの寛大な寄付によって基金を拡充しています。2019年以降、海洋管理基金は、漁業の改善を支援するとともに、混獲の削減や海洋生態域の保護、気候変動の影響に関する重要な調査・研究を助成してきました。

2025年6月の国連海洋会議において、MSCは2030年までに海洋管理基金を通じて650万ドルを助成することを発表しました。

- 220万ドル** 2024年度に85件の漁業・プロジェクトに対して授与
- 880万ドル** 設立以降の助成総額
- 45%** 開発途上国の漁業およびプロジェクトに授与された助成金の割合

カッシュクペリカンの個体数調査

カッシュクペリカンの個体数を正確に推定することは、MSC改善プログラムを通じてMSC認証取得を目指すカリフォルニアマイワシ漁業にとって、海域に及ぼす潜在的影響を理解し、それを軽減するために極めて重要です。カッシュクペリカンは漁船の後を追うことが多く、潜水時に漁具に絡まってしまうリスクがあります。この調査への支援は、MSCイタリアの「サステナブル・シーフード・ウィーク2023」の一環として、カルフルー・イタリアと水産メーカーDeliciousからの海洋管理基金への寄付を通じて行われました。



水上のカッシュクペリカン ©Ernie Enkelaar

Pathwayプロジェクト

14件のPathwayプロジェクトでは、漁業、政府、科学者、NGO、サプライチェーン企業など、複数のパートナーを結びつけることにより、特定の地域において持続可能な漁業に向けた改善を協力して進めています。これらのプロジェクトは、評価ツール、能力開発、調査・研究、市場インセンティブを通じて、地域の漁業が共通の課題に対処し、変革に弾みをつけられるよう支援を行っています。Pathwayプロジェクトが実施されている国は、イギリス、オーストラリア、フランス、スペイン、イタリア、ギリシャ、ポルトガル、モリタニア、セネガル、ガンビア、トンガ、パラオ、サモア、インドネシア、ケニア、中国、カナダです。



FAOによるCommon Oceansプロジェクトの太平洋諸島代表団 ©FAO

Comon Oceansプロジェクト

MSCはCommon Oceans Tunaプロジェクトとの連携を通じて、太平洋地域のマグロ・カツオ類漁業を支援しています。地球環境ファシリティ（GEF）の資金提供を受けFAOが主導するCommon Oceans Tunaプロジェクトは、国家管轄権外区域（ABNJ）⁷における責任あるマグロ・カツオ類漁業の管理と生物多様性保全の推進を目指しています。

MSCは太平洋地域を中心に、マグロ・カツオ類漁業の管理を強化する支援を行って

います。太平洋の3つの小島嶼開発途上国（SIDS）における5つの漁業が、持続可能な漁業慣行に向けた改善に取り組んでいます。

2024年度には、トンガとパラオのマグロ・カツオ類はえ縄漁業がMSC漁業認証の予備審査を完了し、2025年の実施に向けた、改善のための行動計画を策定しました。また、サモアのマグロ・カツオ類はえ縄漁業と伝統漁業が2025年に予備審査に入りました。

世界のマグロ・カツオ類漁獲量の半分以上は中西部太平洋で漁獲されており、マグロ・カツオ類漁業は人々の生活と経済成長にとって重要です。また、マグロ・カツオ類はこの地域の人々にとって主要なタンパク源の一つでもあり、多くの地域社会での健康と食料安全保障において欠かすことのできないものです。

6. MSC漁業認証の取得を目指す漁業は、業績評価指標に照らして審査される。いずれかの指標でスコアが80点未満の場合、認証取得に条件が付与され、漁業はその改善のための行動計画を実施することが求められる。これらの改善は第三者の審査員によって検証され、漁業が世界水準の最優良事例にのっとり行われていることが保証される。

7. 国家管轄権外区域（ABNJ）は、一般に公海と呼ばれる区域で、いずれの国家の管轄権も及ばない区域を指す。

“

この新たな取り組みの目的は、漁業慣行の改善を促進することで健全な海と将来における水産物の供給を守るだけでなく、漁業で生計を立てているコミュニティの生活を支えることです。

MSC漁業認証規格アクセシビリティ責任者
アマンド・リーボウィッツ

”



南アフリカのビンナガマグロー本釣り漁業 ©MSC

MSC 改善プログラム

改善プログラムの開始

「MSC漁業認証取得に向けた改善プログラム」（MSC改善プログラム）は2024年10月に始動しました。このプログラムは、5年間にわたり試行された「MSC認証漁業への移行プログラム（ITM）」に基づいており、5年以内にMSC漁業認証の本審査に入るための改善に取り組んでいる漁業に支援を提供するものです。このプログラムに参加する漁業は、改善に向けて実行可能な行動計画を策定し、その進捗状況は第三者の審査機関によって定期的に検証されることになります。製品にMSCラベルを使用することはできないものの、一定の要求事項を満たしている場合は、包材の裏面に、この改善プログラムに参加している漁業によって獲られた水産物である旨の主張文を表示することができます。



35

2025年3月31日時点の
MSC改善プログラム
参加漁業の数



南アフリカのビンナガマグロー本釣り漁業 ©MSC



南アフリカのビンナガマグロー本釣り漁業 ©MSC

南アフリカのマグロ漁業者による世界初の快挙

2024年8月、南アフリカ、ケープタウンのビンナガマグロー本釣り漁業者から成るグループが、「MSC認証漁業への移行プログラム」への参加を経てMSC漁業認証を取得するという世界初の快挙を成し遂げました。マグロ商社ICV Africaがとりまとめるこの漁業は、漁獲量、餌、混獲データ収集のための船上オブザーバープログラムを導入するなど、数多くの改善を実施する必要がありました。また、南アフリカ・サステナブル・マグロ協会（SASTUNA）がとりまとめを行う南アフリカ・ビンナガマグロ漁業のグループも同プログラムへの参加を経て、2024年12月にMSC漁業認証を取得しました。

“

このプログラムは、MSC漁業認証取得に必要なレベルに達するための改善に向け、明確な枠組みとツール、そして必要な監査を提供してくれました。

ICV Africa マネージング・ディレクター
ミシェル・ベリンジャー氏

”

認知の向上と 需要の拡大

東京サステナブル シーフード・サミット

MSCの最高責任者ルパート・ハウズが、第10回東京サステナブルシーフード・サミット（TSSS）で基調講演を行いました。日本は重要な水産物生産国かつ消費国であり、TSSSは政府や水産業界のステークホルダーと交流する絶好の機会です。ハウズは、アジア太平洋地域におけるサステナブル・シーフードの生産と消費を加速させることのメリット、課題、機会を強調するとともに、同地域におけるMSCの取り組みについて共有しました。



東京サステナブルシーフード・サミット 2024 ©Seafood Legacy

パートナーと協働し、持続可能な漁業の重要性を世界に発信するとともに、世界中の多くの消費者にMSCラベル付き水産物を選んでもらえるように働きかけています。

世界海洋デー 2024

6月8日の「世界海洋デー」に合わせて開催される毎年恒例のキャンペーンでは、海洋保護におけるMSC認証取得漁業の役割が称えられました。持続可能な漁業がどのように海の健全性を支えているかについての認識を高めるために、過去最多のパートナーに協力いただきました。Aldi、イケア、Nomad Foods、Colesなどの大手企業には、MSCのキャンペーンツールの使用や、従業員向けイベントの開催を通じてメッセージを拡散いただきました。南アフリカのシェフ、ナレディ・トゥーナ氏やオーストラリアのローラ・ウェルズ氏といったインフルエンサーたちは、サステナブル・シーフードのレシピや教育コンテンツを使って視聴者に働きかけました。オーストラリア、ニュージーランド、中国、ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）、フランス、インド、日本、オランダ、南アフリカ、スウェーデン、アメリカの漁業者もキャンペーンに参加して、自らのストーリーと海洋環境保全への取り組みを共有しました。



「世界海洋デー 2024」キャンペーンポスター ©MSC

28カ国
実施国数

850件以上
世界各国で報道された記事の数

300以上
参加パートナーの数

80人以上
参加アンバサダーの人数

5,600万回
キャンペーン動画の再生回数

魚種別年報

MSCでは主要な魚種におけるサステナブル・シーフードの状況を詳細に解説した年報を発行しています。今年度は、小型浮魚、マグロ・カツオ類、白身魚の年報を発行しました。これには、データ、図解、分析、そして持続可能性を牽引する漁業の説得力ある事例が集約されており、MSC認証が世界の海、市場、コミュニティにもたらした進展と影響について記されています。小売企業、水産メーカー、加工業者、漁業者からの反応はたいへん好意的で、それぞれの魚種に関する状況や課題についての理解が深まったという声を多くの関係者からいただいています。

「MSC サステナブルなマグロ・カツオ類年報 2024」 ©MSC

マーケティングと消費者の認知向上

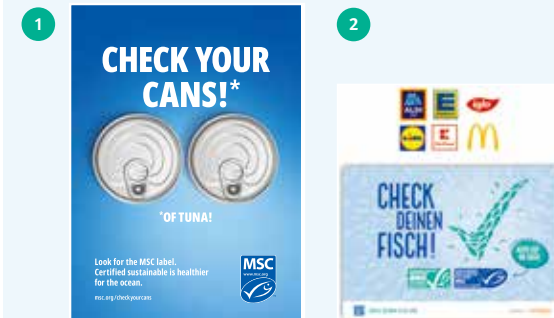
消費者は持続可能性と信頼できる認証ラベルを重視しています。23カ国の消費者を対象とした調査では、水産物を日常的に購入する消費者の半数以上が「水産品にMSCラベルが付いていると購入意欲が高まる」と回答しました。MSCのキャンペーンは購入意欲を高めることに役立っており、2024年度は26カ国で50以上のキャンペーンを実施し、数億人の消費者に情報を届けることができました。

1 「Check your Cans」キャンペーン

カナダで注目を集めた「Check your Cans（あなたが選ぶ缶詰をチェックしよう）」キャンペーンでは、若い購買層に、MSCラベルが付いているかを確認してサステナブルなツナ缶を選ぶよう働きかけました。このキャンペーンはSNSとトロントの交通機関、地下鉄で展開されました。

2 ドイツ、オーストリア、スイス で毎年実施している「Check your Fish（あなたが選ぶ魚をチェックしよう）」キャンペーンは5年目を迎えました。このキャンペーンは、店舗、MSCのウェブサイト、SNS、インフルエンサーとの連携、ラジオなどを通じて多角的に展開されました。ニュース記事やテレビ等の媒体でも取り上げられ、持続可能で責任ある漁業から調達された水産物に対する消費者の認知と理解の向上に貢献しました。2024年はパートナーである32の水産メーカーと小売企業が参加し、マクドナルドではドイツの全店舗で1時間に2回、25日間にわたってキャンペーン動画が配信されました。

3 ポルトガルで実施した「Seas Forever（海よ、永遠に）」キャンペーンは、MSCアンバサダーに就任したシェフのリカルド・ルス氏とともに、同国で最も視聴率の高いテレビ番組の一つで特集されました。キャンペーン期間中、MSCポルトガルは同国で初のアワード式典（MSC Sea Forever Awards）を開催し、持続可能性の推進と水産業界の変革に重要な役割を果たしたパートナーの功績を称えました。



694,000人増
MSCのSNSのフォロワー数

魚種別の動向

MSCプログラム参加漁業が対象としている魚種は200種以上にのぼります。そうした漁業の中には、多くの人々にヘルシーで持続可能、さらには低炭素なタンパク源を安定的に供給し、何万人もの雇用と生計を支える大規模漁業もあれば、生活の場と操業の場が近い小規模な漁業もあります。漁業の規模や対象魚種にかかわらず、持続可能な漁業は不可欠です。MSCは、持続可能な漁業管理における世界的な進展を加速させるうえで重要な役割を果たしている11の魚種グループを挙げました。白身魚やサケ類など、いくつかの魚種グループでは、総漁獲量のうちMSC認証取得漁業による漁獲量が高い割合を占めています。ほかの魚種グループについては、まだ大きな成長の可能性があります。



204

認証取得漁業が
対象とする魚種の数

80%

世界の白身魚の
総漁獲量のうち
MSCプログラムに
参加している漁業による
漁獲量の割合[†]

59%

世界のマグロ・カツオ類の
総漁獲量のうち
MSCプログラムに
参加している漁業による
漁獲量の割合

62%

世界のサケ類の
総漁獲量のうち
MSCプログラムに
参加している漁業による
漁獲量の割合*

[†] MSCプログラム参加漁業の漁獲量は、認証取得、認証審査中、認証一時停止中、MSC改善プログラム参加漁業による漁獲量。2025年3月31日時点の漁獲量および漁業データを
©FAO. 2025. Global Production. In: Fisheries and Aquaculture (2025年6月9日時点の情報を参照) の数字と比較。

*注：サケ類の年間漁獲量は変化が大きいため、数値は年によって変動する場合があります。

海中を泳ぐ巨大な魚の群れ ©iStock

白身魚

世界の白身魚の漁獲量のうち4分の3以上はMSCプログラムに参加している漁業によって漁獲されており、その漁獲量は600万トンを超えています。MSC認証取得漁業による漁獲量が非常に大きい白身魚は、ヨーロッパ、アジア、北米におけるMSCラベル付き水産物の成長を牽引しており、市場の力強い勢いは続いています。



80%

世界の天然白身魚の総漁獲量のうち
MSCプログラムに参加している漁業による
漁獲量の割合

アラスカのスケトウダラ漁業：20年にわたるリーダーシップ

2005年に初めてMSC漁業認証を取得したアラスカのスケトウダラ漁業による漁獲量は、すべてのMSC認証取得漁業による総漁獲量のおよそ9.5%を占めています。世界最大級の漁業であるだけでなく、MSC漁業認証審査において最高のスコアを得ている大規模漁業の一つでもあります。直近の審査では、漁業認証規格の原則1で100%のスコアを達成しました。これは米国海洋大気庁、米国海洋漁業局、米国北太平洋漁業委員会による最先端の資源管理を反映した結果といえます。年間の漁獲は卸売価格で14億ドルを超え、全米で約3万人の雇用を支えています。

シロイトダラの販売

今年度、MSCラベル付きシロイトダラ製品の販売量はほぼ倍増し、現在155の水産メーカーがMSCラベル付きシロイトダラ製品を販売しています。主にペットフード業界の需要がこの増加を牽引しています。

アラスカ、ウナラスカ島のキャプテンズ湾 ©Mark Meyer



マグロ・カツオ類

マグロ・カツオ類は、過去数年間にわたって急成長を遂げ、現在MSCプログラム参加漁業による総漁獲量のうち、約5分の1を占めるまでになりました。MSC認証取得漁業によるマグロ・カツオ類の漁獲量が毎年300万トン程度となり、世界のマグロ・カツオ類の総漁獲量の半分以上を占めています。昨年度のMSCラベル付きマグロ・カツオ類製品の販売重量は30%増となりました。

イギリス、ベネルクス3国、日本におけるマグロ・カツオ類を使用した持ち帰り用製品

サンドイッチやサラダ、寿司など、主要小売店や飲食店では、MSCラベルを表示した持ち帰り用製品がますます増えています。この増加を牽引しているのがマグロ・カツオ類です。イギリスではTescoでツナとエビのサンドイッチ、コスタコーヒーでは新商品のホットサンド「ツナメルト」が販売されています。AldiはMSCラベルの付いたマグロ・カツオ類持ち帰り用製品を拡大しています。日本では、イオンから人気のツナおにぎりや手巻寿司などが販売されています。ベネルクス3国（ベルギー、オランダ、ルクセンブルク）では、大手スーパーのAlbert Heijnが取り扱うマグロ・カツオ類製品の100%がMSCラベル付きのものになりました。その多くは、ツナのパスタサラダ、「江戸寿司セット」、ツナサンド、ツナサラダなどの持ち帰り用製品です。



コスタコーヒーの「ツナメルト」
©Costa Coffee

画期的な漁獲戦略

科学的根拠に基づく頑健な漁獲戦略は、水産資源の長期的な管理に不可欠なものであり、MSCは長年にわたり漁獲戦略の導入を提唱してきました。最新のMSC漁業認証規格では、地域漁業管理機関（RFMO）の管理下で操業するマグロ・カツオ類漁業に対する要求事項が改定され、漁獲戦略と漁獲制御ルールの方策定および実施が求められることになりました。これによって、共有されるマグロ・カツオ類資源の長期的な持続可能性を確かなものにすることができます。

こうした漁獲戦略は、マグロ・カツオ類のように広範囲を回遊し、複数国で共有される資源において特に重要です。今年度は2つの画期的な進展がありました。世界最大のマグロ・カツオ類資源である中西部太平洋（WCPO）のカツオを漁獲する漁業と、北太平洋のビンナガマグロを漁獲する漁業が、厳格な漁獲戦略の実施に成功したのです。世界を牽引するこうした戦略の実施によって、これら2つのマグロ・カツオ類資源の長期的な健全性の確保が期待されます。

サケ類

アラスカのサケ漁業

2000年以降、アラスカのサケ漁業は環境に配慮した持続可能な漁業としてMSC漁業認証を維持しています。アラスカのMSC認証取得サケ漁業には、太平洋原産の5種すべてのサケ類（シロザケ、キングサーモン、ギンザケ、カラフトマス、ベニザケ）が含まれ、流し網、固定式刺し網、まき網、トローリング、捕魚車など多様な漁具が使用されています。2025年には5期にわたり認証を維持し、MSCプログラム参加25周年を迎えました。これはアメリカ初、そして世界で3番目となります。



水揚げされた新鮮なサケ ©Fish Tales



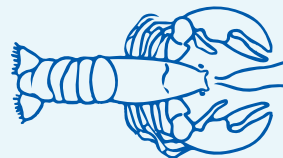
バハマのロブスター漁業 ©MSC

ロブスター類

調査を支援：ニカラグアのロブスター漁業は、海洋管理基金の助成を受けて、伝統漁業に関する公式の調査を開始しました。この漁業はMSC漁業認証規格に基づき本審査に入りましたが、適切な資源評価や、ロブスターの漁獲が資源に及ぼす影響を把握するために必要なデータが不十分であったため、近隣の小規模漁業からより正確なデータを入手する必要があることが判明しました。データ不足を解消するために、この漁業はMSC改善プログラムに参加しました。ニカラグア水産庁は、この調査結果を活用して、すべてのロブスター類の漁獲量の報告ツールを開発する予定です。

カナダのセントローレンス湾に位置するマドレーヌ諸島のロブスター漁業は、2度目の認証更新を果たしました。この漁業は島民の約10%を直接あるいは間接的に雇用しています。

長期にわたる改善プロジェクトを経て2018年にMSC漁業認証を取得したバハマのロブスター漁業は、初の認証更新を成し遂げました。



9,000人
9,000万ドル規模のバハマの
ロブスター産業で雇用されて
いる漁業者数

小型浮魚

イベリア半島のヨーロッパマイワシ

10年前、資源管理における課題のため、イベリア半島のまき網ヨーロッパマイワシ漁業のMSC漁業認証は一時停止になりました。スペインとポルトガルの漁船団は資源回復に向けて初めて協働で取り組み、2024年9月にMSC漁業認証の取得に向け審査に入りました。

2021年、両国は、資源量の回復と長期的に持続可能な管理を行うための複数年計画に合意しました。これは、科学的な勧告を受け入れ、種の保全と経済的な継続性のバランスを追求しながら、重要な水産資源の持続可能性を確保するための二国間協力の一例です。

この漁業は2025年7月（本年次報告書の対象期間外）に認証を取得しました。この成果は、漁業者、加工業者、流通業者を含む水産業セクター全体のバリューチェーンにおける協調的な取り組みによって達成されたものです。認証範囲には、317隻の漁船（うちポルトガル船籍132隻、スペイン船籍185隻）、スペインとポルトガルの15の漁業生産者団体、およびポルトガル食品業界の主要団体3つが含まれています。



イベリア半島のヨーロッパマイワシ漁業 ©MSC

ニシンの市場

ニシンについては、現在、MSCプログラムに参加している漁業による漁獲量が総漁獲量の8%を占めています。特にヨーロッパでは、水産メーカーや小売企業が、認証を取得していない漁業からではなく、適切に管理された北海やアイスランドの漁業からのニシンを選ぶ傾向が高くなっています。Nixe、Varmuza、Lidl、Pennyなどは、MSC認証のニシン製品を販売している水産メーカーや小売の一部に過ぎません。この傾向は今後加速するものと見られており、持続可能な管理が行われていないニシンの資源に対して管理の改善を求める市場圧力が高まっています。

“

Prestige Oysters社のテキサスとルイジアナのカキ漁業 ©MSC

二枚貝



今年度は、アイルランドのムール貝垂下式漁、スウェーデンのScanfjord社のムール貝垂下式漁、アイルランド・北アイルランドのムール貝桁網漁業、ドイツ、ニーダーザクセン州のムール貝桁網漁業、アメリカのマゼランツキヒガイ漁業、カナダのフル湾マゼランツキヒガイ漁業と、多くの二枚貝漁業が認証を更新しました。また、オランダの北海サブトランケイト・サーフクラム漁業とフランスのヨーロッパホタテガイ桁網漁業が初の審査入りを果たしました。

海藻



韓国で海藻の生産が活発化する中、各地方自治体はASC-MSC海藻（藻類）認証を水産業支援の有効な手段として認識するようになっていきます。MSCは昨年、韓国本土最南端の全羅南道との協働を開始しました。これにより、Victory International Co., Ltd.、Jindo Gobchang-Gim、The 2nd Jindo Sarangなどが運営する11の新規海苔養殖場がASC-MSCプログラムに参加しました。ほかにも多くの養殖場が現在審査に入る準備をしています。

海藻 ©Makoto Suuzki / MSC

エビ・カニ類

メキシコの北太平洋ブラウンエビ底びき網漁業は、海洋管理基金のうち、MSC認証の取得を目指す漁業を支援する基金から2度目となる助成を受けました。この漁業はバハ・カリフォルニア沖の太平洋水域でブラウンエビ（別名イエローレグシュリンプ）を漁獲対象としています。漁船にはウミガメや魚の防除装置が装備され、漁獲対象外の種や絶滅危惧種への影響の軽減を図っています。

ノルウェーのズワイガニ漁業は2024年4月にMSC漁業認証を取得しました。年間約1万トンの漁獲量を誇る同漁業は、MSC認証ズワイガニの需要、特に日本での需要拡大に対応する役割を担っています。



ズワイガニ ©iStock

タコ・イカ類

すべての生き物にとっての糧

イカは人気の水産物であるだけでなく、ほかの生き物にとっての重要な餌でもあります。アメリカ東海岸と西海岸沖のMSC認証取得イカ漁業では、イカを逃がす管理手法が採用されています。これによって、十分な量のイカが確実に毎シーズン漁獲されずに逃がされ、水産資源としてはもとより、海洋生態系における餌としての個体群の健全な数が維持されています。



イカ需要の拡大

イカはMSCラベル付き製品の販売重量トップ10に比較的最近加わった種です。主に北米とドイツの需要に牽引され、昨年の販売重量は40%増加し、急成長を続けています。



タコの資源評価

現在、MSC認証取得漁業によるタコの漁獲量は世界全体の漁獲量の1%に過ぎませんが、イタリアのBluFishやギリシャのHellas Fishといったプロジェクトを通じて、MSCプログラム参加漁業の拡大に取り組んでいます。今年度の進展としては、サルデーニャ島、北エーゲ海、カディス湾におけるタコ漁業の新規資源評価を実施するとともに、ほかの種や広範な生態系への影響に関するデータ収集を進めました。MSCで進めているプロジェクトの一環であるMedPathでは、漁業者を含むステークホルダーが、持続可能性に関する共通の課題について議論し、地中海全域のタコ漁業にとっての解決策を模索するワークショップも開催しました。

スペインのタコ漁業 ©Manuel Díaz de RGB Photosocial

数字で見る魚種別の動向

	過去3年間に実施された改善措置								MSCラベル 付き製品の 販売重量 (トン)
	MSC プログラムに 参加している 漁業による 漁獲量(トン)*	MSC プログラムに 参加している 漁業の数^	世界の天然水 産物の総漁獲 量のうちMSC プログラムに 参加している 漁業による 漁獲量の割合	認証取得 漁業による 改善	生態系および 生息域に 関する改善	絶滅危惧種・ 保護種の 保護、混獲の 削減に向けた 改善	資源状態 および 漁獲戦略に 関する改善	漁業管理、 ガバナンス および政策に 関する改善	
 白身魚	6,674,855	213	79.8	127	33	71	12	11	709,970
 マグロ・カツオ類	3,052,340	203	59.2	155	23	48	59	25	317,766
 サケ類	678,255	47	62.4	87	2	6	61	18	90,467
 小型浮魚	3,981,423	39	16.4	50	8	11	24	7	80,185
 ロブスター類	109,138	18	37.0	17	0	8	5	4	2,857



エビ類



カニ類



二枚貝



海藻



タコ類



イカ類

			過去3年間に実施された改善措置					MSCラベル 付き製品の 販売重量 (トン)
MSC プログラムに 参加している 漁業による 漁獲量(トン)*	MSC プログラムに 参加している 漁業の数^	世界の天然水 産物の総漁獲 量のうちMSC プログラムに 参加している 漁業による 漁獲量の割合	認証取得 漁業による 改善	生態系および 生息域に 関する改善	絶滅危惧種・ 保護種の 保護、混獲の 削減に向けた 改善	資源状態 および 漁獲戦略に 関する改善	漁業管理、 ガバナンス および政策に 関する改善	
519,522	50	16.8	34	8	7	10	9	41,559
141,662	40	7.9	12	1	2	9	0	2,695
759,914	50	40.4	26	0	9	9	8	44,486
—	42	—	—	—	—	—	—	18,537
4,248	4	1.1	1	0	0	0	1	152
49,338	4	1.4	3	0	0	0	3	3,105

* MSCプログラム参加漁業の漁獲量は、認証取得、認証審査中、認証一時停止中、MSC改善プログラム参加漁業による漁獲量。2025年3月31日時点の漁獲量および漁業データを
©FAO. 2025. Global Production. In: Fisheries and Aquaculture （2025年6月9日時点の情報を参照）の数字と比較。
^さらにこれらの魚種以外の種を対象にした70のMSCプログラム参加漁業が140,173トンを漁獲している。

2024年度決算報告

決算報告書概要についての評議員会の報告

決算報告書概要は、2025年7月29日に評議員会で承認された、法定評議員年次報告書および決算報告書から抜粋したものです。

監査法人Crowe U.K.LLPにより、法定評議員年次報告書および決算報告書に関して問題なしとの報告がなされた監査報告書が、2025年9月9日に発行されました。

監査法人は、決算報告書概要が、2025年3月31日に終了した会計年度の全決算報告書と整合するという見解を評議員会に表明しました。

MSC評議員会会長
ジャイルズ・ポルトン
2025年9月9日

44,560,000 英ポンド

2025年3月31日時点の資金総額

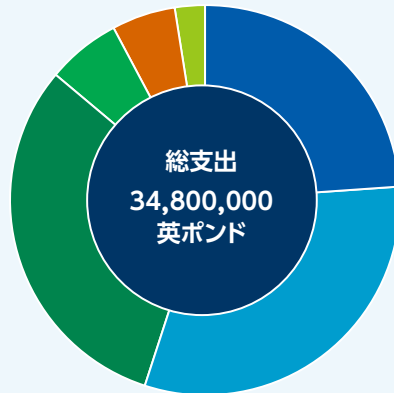
2024年3月31日時点の資金総額：45,260,000英ポンド

収入もしくは支出欄に記載されていない損益については
400,000英ポンドの増益となりました。



収入内訳

- 0.8% 寄付・助成金
- 2.1% その他の取引
- 93.6% 公共事業収入 (ラベル使用ライセンス)
- 3.5% 投資からの収益



支出内訳

- 24.1% 規格の策定・管理
- 31.0% 教育と啓発活動
- 31.1% 商業・漁業関連活動、普及活動
- 6.1% ラベル使用ライセンス
- 5.4% 海洋管理基金*
- 2.3% 資金調達活動

*ロイヤルティ収入の5%に相当。

MSCの財源および資金提供者

MSCの設立以来、そしてこの1年間MSCの取り組みを支えてくださった世界中の多くの資金提供者の皆さまに深く感謝いたします。今年度も引き続き、皆さまからの寛大なご支援のおかげで様々なプロジェクトを継続させることができました。ウォルトン・ファミリー財団からのご支援はメキシコでの活動および社会政策分野に、A.G.レベンティス財団からのご支援はギリシャでの活動に、レマー財団からのご支援はケニアの小規模漁業支援活動に、トライアド財団からのご支援はカナダのPathwaysプロジェクトに、そしてホルツァー・ファミリー財団からのご支援も大切にに使わせていただいています。このほかにもISEALイノベーション基金およびCertifications and Ratings Collaborationを通じて、複数の資金提供者からいくつかのプロジェクトに向けた寛大なご支援をいただいています。

国連食糧農業機関 (FAO) 主導のCommon Oceans Tunaプロジェクトのもと、太平洋におけるマグロ・カツオ類漁業の管理強化に向

けた取り組みに対する、地球環境ファシリティ (GEF) を通じたご支援にも感謝いたします。最後に、MSCイギリスおよびアイルランドの取り組みやプロジェクトUKに対するイギリス環境・食糧・農村地域省 (DEFRA) の漁業・水産物スキームおよび魚商組合慈善信託からのご支援、ならびにイギリス小売業界、サプライチェーン関係企業、水産業界全体からのご支援に深く感謝申し上げます。

2019年に設立されたMSCの海洋管理基金では、過去数年間に助成したプロジェクトの進捗を継続的に確認し、前進させています。MAVA財団からいただいた寛大なご支援は地中海と西アフリカにおける小規模漁業の支援に、ウォルトン・ファミリー財団からのご支援は融資保証制度を確立するために、ハンス・ウィルズドルフ財団からのご支援は世界中の漁業の発展促進と科学研究支援に使わせていただいています。また、2025年度も引き続き実施される研究プロジェクトに対して多大な支援をいただいているカルフル・イタリアおよびDelicious社にも深く感謝申し上げます。

MSCは、次の団体のご支援に感謝いたします。

信託と財団

ウォルトン・ファミリー財団
レマー・ファミリー財団
トライアド財団
ホルツァー・ファミリー財団
デビッド&ルシル・パッカード財団
A.G.レベンティス財団
魚商組合慈善信託
アデッシウム財団 (オランダ)
オランダ郵便番号宝くじ
MAVA自然保護財団 (スイス)
ハンス・ウィルズドルフ財団 (スイス)

公的機関

環境・食糧・農村地域省 (DEFRA)
地球環境ファシリティ (FAO経由)

民間企業

プロジェクトUK (多国籍)
BluFish Italyプロジェクト (多国籍)



MSC評議員会会長のごあいさつ

天然魚介類は重要なタンパク源であり、多くの人々の生活を支えています。この恩恵を永続的に受けるためには、持続可能な漁業によって漁獲されなければなりません。FAOの最新データによると、世界の水産資源の35.5%が過剰漁獲されており、その割合は増加傾向にあります。しかし同時に、漁業が適切に管理されている海域では、資源が回復していることも示されています。

責任ある漁業管理は効果を発揮しており、MSCは極めて重要な役割を担っています。MSCの取り組みにより、消費者は購入する製品が持続可能であると確証を持つことができ、責任ある漁業者は持続可能性を確保するための取り組みが報われるようになります。

現在、世界の天然水産物の18.9%がMSC認証取得漁業によって漁獲されており、MSCプログラムに参加している漁業全体では20.6%までになっています。主要な魚種においては認証が標準となりつつあります。例えばマグロ・カツオ類の場合、世界の漁獲量の約60%がMSCプログラム参加漁業によって漁獲されています。ここ数年間における成長は、MSC漁業認証規格を満たすための各漁業による取り組み、そしてMSC改善プログラムへの参加によって推進されてきました。

この成功を維持し、さらに多くの漁業の進展を促すためには、MSC漁業認証規格が科学的根拠に基づくものであると同時に、漁業の現場に即したものでなければなりません。この1年間、MSCチームは、MSC漁業認証規格第3.0版の改定版がこの課題を解決できるよう懸命に取り組んできました。ステークホルダーと緊密に連携することによって懸案事項を解決し、提案された改善に耳を傾けて検証を行った結果、MSC漁業認証規格が今後も漁業関係者、水産関連事業者、消費者、環境保護団体等すべてが信頼を寄せられるものであり続けるための道筋を整えることができました。

MSC評議員会を代表して、世界中のMSCスタッフに感謝します。MSCの取り組みに尽力し、MSCのビジョンである、生命にあふれた海と、現在と将来の世代にわたって水産物の供給を守るためにあらゆる活動を行ってくれました。技術諮問委員会およびステークホルダー諮問委員会の皆さまにも感謝いたします。皆さまの専門性、見識、ご指導は、MSC認証規格のさらなる改善とMSCの持続的な成功にとって決して欠かすことのできないものです。

MSC評議員会会長
ジャイルズ・ボルトン

2024年度 ガバナンス

MSC評議員会

MSC評議員会は、MSCを管理する組織です。MSCの役員会、技術諮問委員会、ステークホルダー諮問委員会からの助言を得ながら、MSC全体の方向性を定め、進捗状況を確認し、MSCが確実にその目的を遂行できるようにしています。

会長 ジャイルズ・ボルトン	エディ・ンジョロゲ
クリスチャン・Th・デビッドソン	ケヴィン・ストークス
マリア・ダマナキ	セルヒオ・エスペホ・ヤクシク
ミケル・ダーラム	新たに就任された方に歓迎の意を表します
ダリアン・マクベイン	ビルギット・キャメロン

MSCインターナショナル評議員会



MSCインターナショナル（MSCI）評議員会は、MSCラベルの使用許諾および料金体系の監督を行います。

ミケル・ダーラム MSCインターナショナル評議員会 会長	ルパート・ハウス MSC最高責任者
ジャイルズ・ボルトン MSC評議員会 会長	フェルナンド・ラーゴ
ブリギット・キャメロン	ヴァレンティナ・トリップ

ミケル・ダーラム ©Hugo Philpott
レベッカ・レント ©Hugo Philpott

2025年3月31日現在のメンバー

技術諮問委員会



技術諮問委員会は、MSCの役員と緊密に協力し、認証・認定方法の策定や関連する科学、技術研究など、MSC認証規格やそれに付随する方針に関する技術的、科学的事項についてMSC評議員会に提言します。

委員長 レベッカ・レント（アメリカ）
フローリアン・パウマン（ドイツ）
アドリアーナ・ファブラ（スペイン）
エクトル・マルティン・フェルナンデス・アルバレス（スペイン）
セレステ・ルルー（アメリカ）
ジョゼ・アウグスト・ピント・デ・アブレウ（ブラジル）
ビクター・レストレボ（アメリカ）
キース・セインズベリー（オーストラリア）
ミシェル・シュタルク（スイス）
アダム・スワン（イギリス）
クリス・ツインマーマン（ドイツ）
退任される方に感謝の意を表します ティム・エシントン（アメリカ）

MSCステークホルダー 諮問委員会



MSCステークホルダー諮問委員会は、MSCの役員と緊密に協力し、MSCの正式な規格改定のプロセスにおける知見の提供など、

戦略や方針、運営に関わる事項についてMSC評議委員会に提言を行います。同諮問委員会は、水産業界、環境保護団体、民間分野、学術研究分野の代表者を含むメンバーから構成されており、MSCの活動に幅広い専門性、知見、地域多様性、関心が反映されます。また、ステークホルダー諮問委員会は、そのメンバーであるか否かにかかわらず、すべてのステークホルダーの声をMSCに届ける公式な窓口の役割も担っています。

議長 ヘザー・ブレイフォード
西オーストラリア州政府
第一次産業地域開発省（オーストラリア）

ダミアン・ベル
ベルブイ・シーフーズ オーナー
（オーストラリア）

バーナデット・バットフィールド
英国王立鳥類保護協会
バードライフ・インターナショナル
英国海洋チーム
シニア政策オフィサー（イギリス）

クリスチャン・ハラー
アルディ・ノード CRマネージャー（ドイツ）

マルセロ・イダルゴ
FIA COO（パプアニューギニア）

スーザン・ジャクソン
国際シーフード・サステナビリティ財団 (ISSF)
および国際シーフード・サステナビリティ事業者協会 (ISSA) 会長（アメリカ）

マドダ・クマロ
シー・ハーヴェスト・コーポレーション (Pty)
戦略サービスディレクター（南アフリカ）

ソフィーイ・スミーゼゴー・マティースン
デンマーク漁業生産者団体 (DFPO)
生物学者（デンマーク）

トム・ピカレル
世界資源研究所
海洋プログラム・ディレクター（イギリス）

マリア・ホセ・エスピノサ・ロメロ
国家養殖・水産業委員会
運営組織戦略ジェネラル・コーディネーター
（メキシコ）

ブライス・スチュアート
海洋生物学会シニアリサーチフェロー
プリマス大学准教授（イギリス）

モッド・タラワット
漁業改善プロジェクト
コンサルタント（タイ）

退任される方々に感謝の意を表します

トール・ラーセン
ノルウェー漁業者協会（ノルウェー）

ギレーヌ・ルウェリン
WWFインターナショナル（オーストラリア）



インドネシア、コタバルのエビ漁業 ©MSC

**MSC (海洋管理協議会) 本部および
ヨーロッパ・中東・アフリカ地域事務所**

Marine House
1 Snow Hill
London EC1A 2DH
United Kingdom

info@msc.org
Tel + 44 (0)20 7246 8900
Fax + 44 (0)20 8106 0516

Registered Charity number: 1066806
Registered Company number: 3322023

MSC米州地域事務所

2445 M Street NW
Suite 550
Washington, DC 20037
USA

americasinfo@msc.org

Non profit status: 501 (C) (3)
Employer Identification number:
91-2018427

MSCアジア・太平洋地域事務所

6/202 Nicholson Parade
Cronulla
New South Wales 2230
Australia

apinfo@msc.org
Tel +61 (0)2 9527 6883

Non profit status: Registered with ACNC
Registered Company number:
ABN 69 517 984 605,
ACN: 102 397 839

MSC各国・地域事務所

ベルギー、ルクセンブルク ブリュッセル

中国本土、香港 北京、青島

ドイツ、スイス、オーストリア ベルリン

インドネシア ジャカルタ

韓国 釜山

南アフリカ ケープタウン

デンマーク コペンハーゲン

フィンランド、バルト諸国 ヘルシンキ

オランダ ハーグ

ペルー リマ

ポルトガル リスボン

スペイン マドリード

イタリア ミラノ

ノルウェー オスロ

フランス パリ

アイスランド、フェロー諸島、グリーンランド
レイキャビク

チリ サンティアゴ

アメリカ シアトル

シンガポール

スウェーデン ストックホルム

日本 東京

カナダ トロント

ポーランド、中欧 ワルシャワ

その他の活動国

インド ケララ州

メキシコ メキシコシティ

ロシア モスクワ

本報告書の内容は、特に明記されていない限り2025年3月31日時点のデータに基づくものです。報告年度は2024年4月1日から2025年3月31日です。

一般社団法人 MSCジャパン

〒103-0026

東京都中央区日本橋兜町9-15
兜町住信ビル3階

Tel: 03-5623-2845

Email: MSCJapan@msc.org
www.msc.org/jp



@MSC_Japam



/MSCJapan



/mscjapan

©Marine Stewardship Council 2025

デザイン: Be Curious Limited

画像の著作権は特に明記されていない限り、
MSCが有しています。